

西村大臣記者会見要旨

令和2年7月15日（水）17時50分～18時23分（33分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）お疲れさまです。私からは1点、AIシミュレーションにつきましてお話を申し上げます。もう既に御説明しておりますとおり、2次補正予算で14億の予算を確保いたしまして、これまで我々がとってきた対策の効果の分析、第2波に備えて、この対策をより進化させていくと。あるいは感染のシミュレーションであるとか、検知の仕組みであるとか、こういったテーマについて、今、公募を行っているところであります。7月9日から公募を行って、21日が締め切りということですよ。

そうした中で、こうしたことに加えて、まずデータを民間企業がさまざま、例えばもう御存じのとおり、ソフトバンクであるとか楽天であるとか、幾つかの企業が従業員の方に対して抗体検査を行っております。また、民間のクリニックでも抗体検査やPCR検査を行っているところもあります。これは自費で行っている方もおられるということですよ。大学でも、全国の大学でいろいろ調査、検査を行っておられます。こうしたデータをできるだけ収集をしたいと思っています。

個人情報もしっかりと保護したかたちで、そしてまた、それぞれの調査、検査に精度に差があることも踏まえながら、できるだけ多くのデータをビッグデータとして解析を進めていきたいと思っておりますので、ぜひ全国の企業や大学やクリニック、こうした皆さんに、私ども、corona.jpの、このホームページから入れますので、今ここに出ていますけれども、一番下のところ。

それから、開発テーマについても、さまざまなテーマを今、このところですよ、こういうふうにデータの登録ということで申し込みもできますので、こういったフォームもありますから、ぜひ私どものホームページからこうしたデータの提供をお願いしたいと思っています。

人の流れのデータもさまざま分析をなされているようでありますし、またコンサートホールやライブハウスでも、それぞれ3Dのそうしたデータもとっておられるようですよ、こうい

ったものも活用しながら、まさに分野別のガイドライン、業界別のガイドラインも進化させていきたいと思っていますので、ぜひ提供をお願いしたいと思います。

そして、開発テーマについても、大きく5つの分野についてお示しをしておりますが、それぞれ全国の研究者がさまざまなテーマを自分たちで考えながら研究されていると思いますので、こうしたことについてもぜひ情報提供をいただければと。特に幅広く提案をいただければと。大きな5分野について、私ども、こういったことができないかという投げかけをしておりますが、自分たちはこんなことを研究してこんなことをやりたいんだ、ここまで進んでいるんだといったことを含めて、提案をいただければありがたいなと思っています。ぜひ、私どもの「corona.go.jp」からアクセスしていただければありがたいと思います。

スケジュールにつきましては、今、申し上げましたとおり、21日まで公募締め切りとしておりますが、データについてはいつでもあれですけれども、できるだけ早い段階でいただければありがたいと思います。そして月内に、テーマなど予算の1回目の配分を決めて、そしてアドバイザリーボードを開く予定にしております。黒川先生、山中先生、安西先生、永井先生の会を開く予定にしております。

いずれにしても、8月中に第1弾の研究成果が出るように、そしてまた8月下旬にアドバイザリーボードを開く予定にしておりますし、第2弾も9月のしかるべきタイミングまで、ぜひこの夏のうちに研究成果を出して、対策の進化をできるようにしていきたいと考えています。私からは以上です。

（問）東京都が感染状況について4段階の中で最も高いレベルに引き上げを行いました。感染経路不明の感染者が増えているということですが、これについて大臣の御感想、現状、政府としてどう感染経路など、東京都も含めて、全国、どのような分析をされているのでしょうか。

（大臣）東京都が、今日モニタリング会議を開かれて、そして4段階の警戒レベルの一番高いところに感染状況について上げられたということで、承知をしておりますし、小池知事からも直接電話をもらいました。まさにこの東京の感染状況については、私も危機感を共有しているところであります。

その上で、24条9項に基づく要請も行っていくということでは、報告をいただいておりますので、国と都で歩調を合わせながら、特にバー、クラブなど接待を伴う飲食店で新規の陽性者が数多く出てきていますので、この方が今、協力的に検査を受けてくれている分、ふえてきていますけれども、ぜひそこから二次感染、三次感染といかないように対応していかなきやいけないと思っております。

足元、感染経路不明の方の割合がふえていたり、あるいは少しずつではありますが高年の方々の感染もみられます。また、飲み会や会食によって感染の拡大、そして感染の例もみられていますので、ぜひ引き続き、国民の皆さんには3密回避と、最近では大声と換気、これがやはり重要であることがいろんな例からもわかってきています。

新宿の小劇場でも換気が悪かった、楽屋で狭い所に密集をしたりとか、そういうこともあります。ガイドラインが守られていなかったようなところもあります。都のほうでしっかりと調査をされるようでありましてけれども、ぜひ事業者の皆さんにはガイドラインを徹底していただくということですが、国民の皆さんには引き続き、原点である3密回避と、大声、換気、これを注意していただきたいと思っております。

それから、やはり中高年、特に高齢者、60歳以上の方の感染が少しずつではありますが増えてきておりますので、改めて、きょうも加藤大臣とも話しましたけれども、東京の医療体制、今の段階で逼迫（ひっぱく）している状況はありませんけれども、引き続き確保していただくと同時に、無症状の方、軽症者のためのホテル確保に万全を期していくと。ホテルでの療養をしていただくための万全を期していただくように、厚労省と都のほうでいろいろと調整を進めながらやるということでありまますので、そういった連携をしながら万全を期していきたいと思っております。

私のほうは、この高齢者の感染者の数がどういうふうに移りをしていくのか、これをしっかり見ていきたいというふうには考えています。当然、若い方々も若いから安心だというわけではありませんけれども、リスクの高い高齢者の感染が増えてきまますと、当然、入院しての治療が必要になってくるということが考えられますので、特に高齢者の新規感染者の数をしっかり見ていきたい。

あわせて、病院の提供体制、それから特に重症者の受け入れ体制。きょうは重症者の数が7名ということで、東京都からは聞いております。100床用意してありますので、まだ十分な余裕がありますけれども、しかし、この高齢者、それから重症者、その医療提供体制、このあたりをしっかりと見ていきたいと考えています。

(問) G・T・キャンペーンについてお聞きします。先ほどの東京都の会見でも、都から不要不急で出ないようにというような呼びかけがある中で、現状、G・T・キャンペーンについてはどのように考えておられるか、お聞かせください。

(大臣) 小池知事からもそういったことの表明を私も聞きましたし、またそうしたお話があったことも、赤羽大臣にも私から伝えました。そして、国交省では感染防止策を徹底するということで、昨日既に発表しているところでもありますけれども、あす夜に開催予定の新型コロナウイルス感染症の分科会において、専門家の皆さんに東京都のこうした状況について、そしてまた全国の感染状況について分析をいただく予定にしております。

そこに国交省から、観光庁の方になると思いますが、出席をしてもらい、現状のこのG・T・キャンペーンについての考え方について説明をしてもらい、特に感染防止策も含めて説明をしてもらって、その上で専門家の皆さんに御意見をいただければと考えているところです。

(問) 今のG・T・キャンペーンに関してなのですが、午前中の国会での審議でも、野党の先生たちからいろいろ質疑があつて、大臣は答えられていましたけれども、経済財政諮問会議の竹森先生が、「もし感染が広がるようなことがあれば、これは将来の観光によくない」といった御意見を述べられていました。

このタイミングでG・T・キャンペーンを、8月中旬だったものが7月22日に前倒しして実施することについて、大臣としてはどのように評価をされているのでしょうか。このタイミングでやはりやるべきなのか、それとも経済への影響を考えると慎重なお考えはあるのか、大臣としてどのようにお考えでしょうか。

(大臣) 私の立場は、感染拡大を防ぐこと、この感染症を大きな波にせず封じ込めていくこと、その範囲で的確に抑え込ん

でいくこと、そしてあわせて、経済社会活動を段階的に引き上げて、その両立を図っていくこと、これが私の役割だと思っております。したがって、それぞれの立場で感染防止策をしっかりと講じていただいた上で、経済社会活動と両立を図っていくことだと思っております。

そして、感染状況、東京都の状況、あるいは全国の状況については、日々専門家の皆さんの御意見もいただいております。きょう、国会の場でこのことについて、感染症の専門家のお二人の意見表明がありませんでした。そのチャンスがなかったのですから、これは残念というか、聞いていただいてもよかったかなと私自身は思っておりますが、日々伺っている範囲で申し上げれば、きょうの時点でも、まさに例えば家族旅行で、いつも一緒にいる家族が旅行をして、そして現地でその範囲で、何か夜の街に行ったりすることもなく、そして感染防止策、3密、そして先ほど申し上げた大声を出さないとか、換気のいい場所にいるとか、そういったことをしている限りは大きなリスクにはならないという評価をいただいております。

ただ他方で、現地に行つて、例えば社員旅行、あるいは大勢の同窓会のようなかたちで行つて、現地で宴会でどんちゃん騒ぎをするようなことになれば、これは感染が拡大する恐れもあります。

したがって、いずれにしても、私自身は感染拡大の防止策をしっかりと講じていただいて、その上で経済社会活動の両立を図っていくことですが、これは旅行に限らず、県をまたぐ移動に限らず、我々の日頃の日常の活動も全く同じでありますので、私自身はその基本的な考え方のもとでどう進めていくべきかということを考えなきゃいけないと思っております。

ですので、今のは一例ですけれども、国交省において専門家の意見もしっかり聞きながら、判断をされて対応をされるものと考えています。

(問) 先ほどあったG・T・Oキャンペーンについてなんですけれども、先ほど、東京の医療体制は問題ないということをおっしゃって、今後、G・T・Oキャンペーンを展開する中で、人の移動、県をまたぐ移動が増える。その中で、万一の場合に備えて、地方の医療体制が今どういう状況にあるか、把握されているのではないかと思うんですけれども、政府内で検討なさったの

でしょうか。

(大臣) 地方の医療提供体制については、毎週、厚労省において地方自治体と連携しながら、病床の確保の体制とか、重症者の数とか、入院されている方の数とか、こういったところを毎週1度報告を受け、そして協議しながら、体制がしっかりとれているかどうかを確認して、このことは毎週公表させていただいています。これは私も厚労省と毎週の数字を見て、地方の医療提供体制が現時点で何か逼迫しているような状況にはないということ、先週も確認をしております。

ということですので、もう一つ言えば、7月末までに厚労省が各県からさらに求めることについて協議をすることになっていくというふうに承知をしておりますけれども、第1の大きな波を経験した、緊急事態宣言を経験したそのときの経験をもとに、医療の提供体制、また次の大きな波が来たときにどうして対応していくのかという、計算式などを提示して、各県で検討をしてもらっていますので、これが7月末までにまたまとまってきます。

ですので、毎週確認をしている上に、そうした次なる大きな波に備える体制についても、まさに3兆円の2次補正予算も活用しながら、医療提供体制、地方も含めて全国で万全を期しているということです。

(問) G・O・T・キャンペーンに伴う訪問者の増加というパラメータというのは盛り込んでいるのでしょうか。

(大臣) 当然、感染拡大防止策を講じるというのが大前提で、これは国交省においても今、取り組んでいますし、私のほうから専門家の皆さんの意見も聞いてもらうようにということで、さらに徹底した感染防止策、例えば先ほど申し上げたような、宴会を大勢の人数で行うことは避けてもらうとか、あるいは朝食会場でも近い距離で大勢の人数が同じ場所で換気の悪い所で食事をすることがないように、こういったことを専門家の皆さんからも御意見をいただいて、徹底をしていくということです。したがって、地方には感染をさせないという前提で進めていくということです。

(問) ハローワークの調べですと、7月、やはりコロナで解雇、された方が急増して、今現在3万2,000と。これは1番は宿泊、

2番はいわゆる飲食、4割ぐらい占めている。しかし、この飲食は御案内のとおりパートナーとか非正規が多いですから、必然的に職を失っている人が多分5割とかいて、すると、つまるところG・T・キャンペーンというのは、やはりいわゆる雇用対策というのでしょうか、そのイベントの方や産業振興とか観光振興というよりは、やはり雇用対策という狙いがあるのかどうか。そのウエートをどれぐらい考えておられるのか。それゆえに、やはりあえて早く前倒しでやるというような選択をとられたのか。そのところは私はよく分からないので、ぜひ教えていただきたいです。

(大臣) 今、お答えする前に、先ほどの御質問に対して、させないということが前提で進めていくと。どういう形で進めていくかは、あしたの専門家の皆さんの御意見を聞いてから、国交省において検討し、判断していきまますので、私が今もう進めるという前提で言っているということではありませんので、誤解のないようにしていただいて、あくまでの感染状況について専門家の皆さんにしっかりと分析をいただいて、その上で判断をしていくと。特に国交省において判断をすると。

G・T・キャンペーンをどうするかはかかわりなく、地方の旅館、ホテルにおいては、当然、感染拡大防止策を徹底していただくのは、これはG・T・キャンペーンをやる、やらないにかかわりなく、当然、進めていただくわけですので、宴会で大勢の人数でどんちゃん騒ぎがもしあれば、当然拡大していく。これは東京から行った人のみならず、その地域でも当然どこに潜んでいるかわからないウイルスですから、そういったことをやっていけば広がっていく恐れがあります。

そういうことを申し上げていますので、誤解のないようにしていただいて、感染拡大がないように、もう万全を期しながら対応していくと。しかし、専門家の意見をしっかりと聞いて、どういう形で進めていくのかどうか、この点は明日の分科会で、国交省、観光庁の方にしっかりと直接聞いていただきながら、適切に判断をしてもらえればと考えています。

そして、G・T・キャンペーンでありますけれども、これは以前から申し上げていきますとおり、この間、4月、5月、緊急事態宣言を発出したとき、当然、飲食も大変、多くの事業者は大変です。特に移動を自粛していただきましたので、全国の観光地の旅館、ホテル、そして土産物屋さん含めて、それぞれの

地域が大変厳しい状況にあるという中で、緊急事態宣言が解除された後はそうした大きな、この流行を収束させた後は、こうした支援策、いわば観光振興の観点でこうしたキャンペーンを進めていこうということでもあります。そのために予算も確保して進めているところでもあります。

当然、地域の宿泊、ホテル、旅館、こういった事業者の皆さん、あるいは土産物屋さん、当然そうした方々への支援ということにつながっていくものと思いますし、使いようによって交通機関、地域のバスとかタクシーとか、これも組み込みますので、そういった方々にもプラスになると思います。

その結果、今、休業をさせている皆さんを現場でまた職に戻ってもらうということは、当然可能になってくると思います。仮にすぐに戻せない状況であっても、休業という状況は続いたとしても、これは雇用調整助成金で中小企業の皆さん、休業要請に応じてくれた皆さんには、最大10分の10、そして上限月額33万まで雇用調整助成金で支援ができますので、できるなら雇い止めとか解雇とかということではなくて、休業で何とか踏ん張っていただいで、それを国が雇用調整助成金で支援をしていくと。

そして、その中で経済との両立を図っていく中で、G・O・T・Oキャンペーンも含めて地域が、経済が元に回復してくれば、そうした休業させている皆さんをまた職に戻していただくということでもありますから、広い意味で経済の支援策であり、それは雇用対策にもつながっていくものと考えています。

(問) G・O・T・Oキャンペーンのことを度々すみません、先ほど専門家から、明日、国交省が説明した上で意見を聞きたいという話でしたけれども、専門家からどのような意見を大臣としてはお聞きしたいのか。例えば、いろいろ今言われていますけれども、このまま実施する、もしくは中止する、もしくは延期する、それとも地域を限定してやってくれという意見も知事からも出ていると思います。そのようなことも含めて、お聞きしたいのはどのような意見を求めているのか教えてください。

(大臣) 東京の感染状況については日々、私も専門家の皆さんと議論をしていますし、全国の状況も分析を共有していますけれども、専門家の皆さん、それぞれのお立場もあって、御案内のとおり分科会の中には感染症の専門家以外にも、病院の経営

者、それから地方の代表、知事も入っておられます。それから、経済界の代表、労働組合の代表、そしてそれ以外のさまざまな分野の専門家も入っておられますから、全体として私が余談をもって、こんなことを期待しているということは申し上げるつもりはありません。

専門家の皆さん、それぞれのお立場からそれぞれのお考えを言っていて、それを当然私は受け止めますし、国交省にも受け止めて頂いて、その上で適切に判断をしていただくということになります。

（問）東京都の小池知事が、不要不急の都外への外出を控えるようにというふうにと、その辺は国としてどういう考えで、賛成しているのか、理解しているのか、それとも、やはりまだ今、国では自由な移動はできるという状態だと思ふんですけれども、そこはというふうにお答えになられたのか、今どうお考えでしょうか。

（大臣）これも明日、専門家の皆さんにもお聞きをしようと思っているところですが、これまで小池知事と認識を共有してきたことは、当然、体調の悪い方は外出をそもそも控えていただくし、相談センターに連絡をして早めのPCR受診をしてもらうと。したがって、当然、県をまたぐ移動は控えていただく、こういったこと。

それから、仮に県をまたぐ移動、都から出る場合でも、感染防止策はしっかりと講じていただく。これは、都をまたぐ移動、県をまたぐ移動だけじゃなくて、我々が日頃からしなきゃいけないことですので、基本ではありますけれども、感染防止策をどんな場合でも講じていただく。マスクをしたり、消毒をしたり、大声を出さない、換気の悪い所には行かない、3密は回避する。こうったことを徹底していただくということで共有をしてきました。今の時点でこのことに私は変わりはありません。

ただ、東京都の会議で専門家の皆さんからそういう意見を受けて、知事からそういう表明がございました。このことについては、東京都の知事のお考えとして私は受け止めておりますが、今後、政府としてどう考えていくか、明日の専門家の皆さんにもお聞きして、判断をしていきたいと考えています。

（問）現時点では、国から県をまたぐ移動については自由だと

いうお考えでしょうか。

（大臣）そのとおりです。自由だけれども、繰り返しになります。調子の悪い方はぜひ自宅にいていただき、そして、早くセンターに電話をしてPCR検査を受けていただくことが大事だと思いますし、どんな場合でも感染防止策を講じることが大事ということでもありますので、そのことについて今の時点で変わりはありません。

（問）ちょっと続けて聞きたいんですけども、すみません。これまで都と一度すれ違いもあって、それについて、この間、認識を共有されたばかりだったんですけども、事前の相談があった上で都知事はああいう発言というか、公の場でもされたのでしょうか。それなのか、もう直前に大臣が聞いて、え？と思ったというか。

（大臣）これは東京都として、専門家の皆さんが入るモニタリング会議で、専門家のそういう意見を受けて知事が表明されたことと承知をしていますので、これは知事の責任の範囲でそう言われているということだと思います。

当然、私の考えは先ほど申し上げたとおりですけれども、国の大きな基本的対処方針があって、そしてそれぞれの感染状況などを踏まえて、知事はそれぞれの考えで、知事の責任で、これはいろいろな考えで措置をとることができます。ですから、それは東京都知事の責任で、東京都知事の判断でそういう表明をされたというふうに認識をしていますので、私のほうでは国全体の方針では、先ほど申し上げたとおり、今の時点で変更はありません。

（問）最初の質問で、大臣の御発言をちょっと確認させていただきたいのですが、小池さんと電話でお話しされた際に、24条の休業要請をやっていくという報告があったというようなお話があったかと思うんですけども、都として24条を、接待を伴う飲食店にやっていくというお考え、お話があったのかどうかということと、それと、4都県に対する現在の強制状況は、どのような状況になっているのかということのもあわせてお願いします。

（大臣）小池知事からお話があったのは、ガイドラインを守らない店には行かないようにということをお願いをしたいという

こと。それから、小劇場ですね、これが出ていますので、こうしたイベントの開催にあたってはガイドラインの順守をお願いしたいということ。そういったことのお話がありました。これらについては、24条9項を使って呼びかけをしたい、要請をしたいということでお話がありました。それでいいですか？

あと、埼玉県とか千葉県とか神奈川県とか、それぞれ御自身の判断でもう既に24条9項で要請をされたりしておりますので、これについては、さらに、あす、分科会でも専門家の皆さんにも私どもの考えをお示しをしながら、今の時点でどういう対策をとるのがいいか、これについてはお聞きをしながら、並行的にそれぞれのこの首都圏の4知事、そして事務的にもしっかり相談をしながら、連携して対策をとっていきたいと考えています。

(問) G・T・Oについて改めて確認ですけれども、22日に全国一律で開始することを延期するかだとか、地域限定にするかだとか、そういうことは全て、あしたの分科会での専門家の評価を国交大臣も出席して、その評価を受けて、それを持ち帰って、国交省や観光庁が延期するかどうかについて持ち帰って判断をするということですか。

(大臣) 明日、出席をするのは、恐らく国交省の観光庁のどなたか、責任者のお一人が来られるというふうに思います。恐らく、出席者は調整をしていると思いますけれども、来ていただいて、G・T・Oキャンペーンの趣旨とかそういったこと、あるいは宿泊事業者や交通事業者など、とってもらっている、あるいは義務づけるという表現をされたのですかね。そうした感染防止策、こういったことにも説明がなされると思います。既に専門家の皆さんには感染防止策についてアドバイスをしてもらうように私からもお願いをしているところですが、いずれにしても説明をし、改めて多くの感染症の専門家のほかの方も含めて、全体として分科会としての意見を聞いた上で、そして国交省において適切な対応をとっていくと考えています。ありがとうございます。